

脳・神経系統による身体性機能障害にかかる障害診断書

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
障害名(現在起こっている障害、例えば「右上下肢麻痺」等の部位を明記してください。)							
原因となった疾病・外傷名(「脳梗塞」等の病名を記入してください。)							
交通事故・労災 / その他事故 / 疾病 / 先天性 / その他 ()							
疾病・外傷発生日 年 月 日 場所							
参考となる経過・現症(画像診断及び検査所見を含む。)							
<p>【必須記入事項】傷病が治ったかどうか</p> <p><input type="checkbox"/> 傷病が治っている … 治った日(※) 平成 年 月 日</p> <p><input type="checkbox"/> 傷病が治っていない</p> <p>※「治った」とは、療養が終了しており、かつ症状が固定している状態を意味します。</p>							
総合所見(傷病の発生から現状に至る経過及び現症、症状の固定又は永続性の状態を記載してください。)							
その他参考となる合併症状							

上記のとおり診断する

診断年月日 平成 年 月 日
 本診断書発行年月日 平成 年 月 日

病院、診療所若しくは介護
 老人保健施設等の名称及び
 所在地又は医師の住所

(氏名) 医師名

印

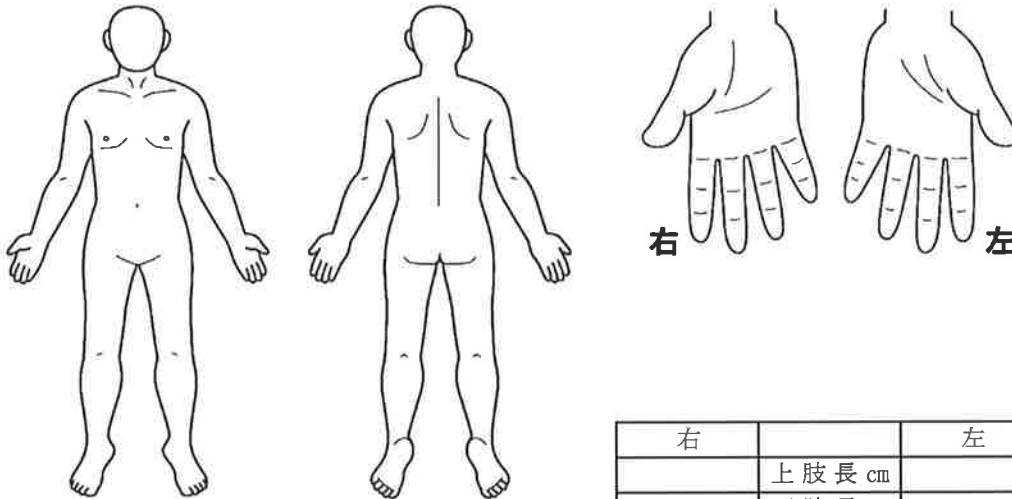
氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
----	--	-----	------	-------	---	---	---

神経学的所見その他の機能障害(形態異常)の所見

1. 感覚障害(下記図示): なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
2. 運動障害(下記図示): なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
3. 起 因 部 位: 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
4. 排尿・排便機能障害: なし・あり
5. 形 態 異 常: なし・あり

(該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入)

参考図示



× 変形 ■ 切離断 ▨ 感覚障害 ▨ 運動障害
 (注) 関係ない部分は記入不要

右		左
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径 cm	
	前腕周径 cm	
	大腿周径 cm	
	下腿周径 cm	
	握力 kg	

計測法

上肢長: 肩峰 → 橈骨茎状突起

下肢長: 上前腸骨棘 → (脛骨)内果

上腕周径: 最大周径

前腕周径: 最大周径

大腿周径: 膝蓋骨上縁上10cmの周径(小児等の場合は別記)

下腿周径: 最大周径

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
----	--	-----	------	-------	---	---	---

下記の該当するものに[自立○ 半介助△ 全介助又は不能×]を付けてください。

動作・活動

自立○ 半介助△ 全介助又は不能×

動作	評価	動作	評価
握る(ピンポン玉位の大きさのもの)	右 左	排泄のあと始末をする	
つまむ(紙がひきぬける程度)		寝がえりをする	
物をさげる(手指でも肘でも)	(kg) (kg)	座位保持(あしなげだし、あぐら、横すわり、正座)	(分)
字を書く		椅子に腰かける	
箸で食事をする		洋式便器にすわる	
コップで水を飲む		床又は座位から立ちあがる(てすり等)	
鍬又はかなづちを握っての作業		起立位保持	
シャツを着て脱ぐ		片足立ち	右 左
ズボンをはいて脱ぐ(自助具)		歩 行(補装具を使用しない状態で)	(m)
ブラシで歯をみがく(自助具)		家の中の移動(補装具)	
顔を洗いタオルで拭く		屋外の移動 (補装具)	
タオルを絞る		二階まで階段を上って下りる(てすり、杖等)	
背中を洗う		公共の乗り物を利用する	

下記の該当するものに○印を付けてください。


【上肢】動作	評価
完全硬直又はこれに近い状態にあるもの	
3大関節及び5の手指のいずれの関節も自動運動によっては可動させることができないもの 又はこれに近い状態にあるもの	
随意運動の顕著な障害により、当該上肢では物を持ち上げて移動させることができないもの	
障害を残した1上肢では仕事に必要な軽量の物(おおむね500g)を持ち上げることができないもの	
障害を残した1上肢では文字を書くことに困難を伴うもの	
【下肢】動作	評価
完全硬直又はこれに近い状態にあるもの	
3大関節のいずれも自動運動によっては可動させることができないもの 又はこれに近い状態にあるもの	
随意運動の顕著な障害により、当該下肢の支持性及び随意的な運動性をほとんど失ったもの	
障害を残した1下肢を有するため杖若しくは硬性装具なしには階段を上ることができないもの 又は障害を残した両下肢を有するため杖若しくは硬性装具なしには歩行が困難なもの	
日常生活はおおむね独歩であるが、障害を残した1下肢を有するために不安定で転倒しやすく、 速度も遅いもの 又は障害を残した両下肢を有するため杖若しくは硬性装具なしには階段を上ることができないもの	

氏名		男・女	生年月日	昭和・平成	年	月	日
----	--	-----	------	-------	---	---	---

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)

(この表は必要な部分を記入)

筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
↓	↓	↓	↓	↓
() 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 () 頸 () 左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	右屈 ()
() 前屈		後屈 () 体幹 () 左屈		右屈 ()
Ⓢ	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	() 屈曲 () 伸展 () () 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	Ⓢ () 屈曲 ()
() 外転		() 内転 () 肩 () 内転		() 外転 ()
() 外旋		() 内旋 () () 内旋		() 外旋 ()
() 屈曲		() 伸展 () 肘 () 伸展		() 屈曲 ()
() 回外		() 回内 () 前腕 () 回内		() 回外 ()
() 掌屈		() 背屈 () 手 () 背屈		() 掌屈 ()
() 屈曲		() 伸展 () 中 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 手 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 指 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 節 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () (PIP) () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 近 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 位 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 指 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () 節 () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲		() 伸展 () (PIP) () 伸展		() 屈曲 ()
() 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	() 伸展 () () 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	() 屈曲 ()
() 外転		() 内転 () 股 () 内転		() 外転 ()
() 外旋		() 内旋 () () 内旋		() 外旋 ()
() 屈曲		() 伸展 () 膝 () 伸展		() 屈曲 ()
() 底屈		() 背屈 () 足 () 背屈		() 底屈 ()

- 備考(注)
- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
 - 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
 - 3 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(∩)を引く。
 - 4 筋力については、表()内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失又は著減(筋力0、1、2該当)
△印は、筋力半減(筋力3該当)
○印は、筋力正常又はやや減(筋力4、5該当)

- 5 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
- 6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる
- 7 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示



- 8 記載のない事項は正常と判断する。